

幅五尺八寸 右同斷

側高^サ壹尺六寸

但丹州齒部鳥羽川關宇津根此四ヶ所之舟同ジ寸尺

〔羅山文集^{四十三}碑誌〕吉田了以碑銘

十二年^{長慶}春了以奉鈞命通舩於富士川自駿州岩淵挽舟到甲府山峽洞民未嘗見有舟皆驚曰非

魚而走水恠哉々々與胡人不知舟何以異哉此川最嶮甚於嵯峨然漕舩通行州民大悅^略○中十六年

了以請行舟鳴河乃聽之因自伏見河漕舩遡上流達于二條至今有數百艘遂構家河傍

〔甲斐國志^{三十一}山川〕一富士川慶長中角倉與市ガ台命ヲ奉ジテ險ヲ平ラゲ漕道ヲ通シケレバ土

人皆驚歎シテ神功ト稱シキ^略○中船ノ制ハ長七間半横七尺深三尺許薄板ヲ以テ造之船底平ニ

シテ艫舳共ニ高シ之ヲ行ルトキハ一人船頭ニ在テ篙ヲ執リ一人船尾ニ在テ舵ヲ持テ舟梁ニ

立チ兩人船旁ニ雙ビテ權ヲ以テ水ヲ撥キ船ヲシテ疾行セシム其船頭ニ在ル者危險回折ノ處

ニ遇毎ニ豫手ヲ舉テ在尾者ヲ警シム在尾者即舵ヲ盪シテ船ヲ左右ニスルコト自由自在ナリ

進テ其處ニ至レバ船頭ニ在ル者篙ヲ伏石峭巖ニ支ヘテ回避シ怒濤ニ簸揚セラレテ下ルコト

速ナリ歟澤河津ヨリ駿州巖淵河岸ニ至ル水程十八里日ヲ終ヘズシテ著スベシ若急事アル時

ハ三時四時ニシテ達スト云

〔觀放生會記^{八月五年寶曆}〕十四日の末の時ばかりに京を出て五條より高瀬舟にのりて下るほど

に申のかしらに伏見につきぬ

〔金葉和歌集^{三秋}〕河霧をよめる

川霧のたちこめつればたかせ舟わけゆくさほの音のみぞする

藤原行家

〔新撰字鏡^舟〕撞衝

^{艦狭長也}
^{比長太}